

「千歳市中心市街地活性化基本計画」総括

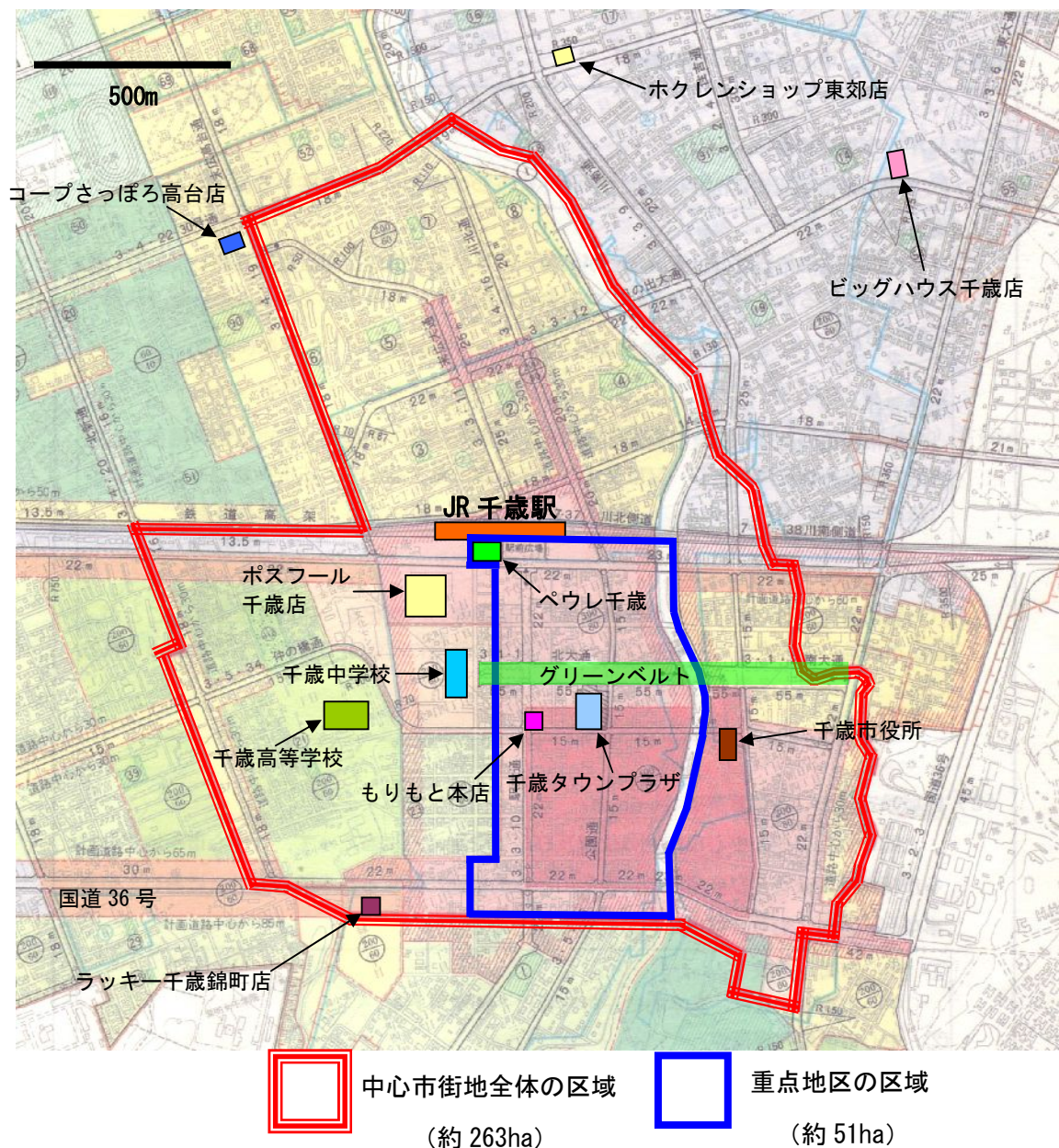
平成22年5月

千歳市

1 基本計画の概要

「千歳市中心市街地活性化基本計画」は、行政、商業者、住民等が一体となって、未来志向型で、夢のある、魅力的な千歳市を作っていくため、中心市街地のコンセプトを『未来型都市を目指して』～ゆめ・まち・ちとせ～ と定めて計画期間を平成12年度から平成21年度とし、中心市街地の範囲(下図)を約263ha(うち重点地区は千代田町、幸町、清水町、錦町の約51ha)として平成12年3月に策定しました。

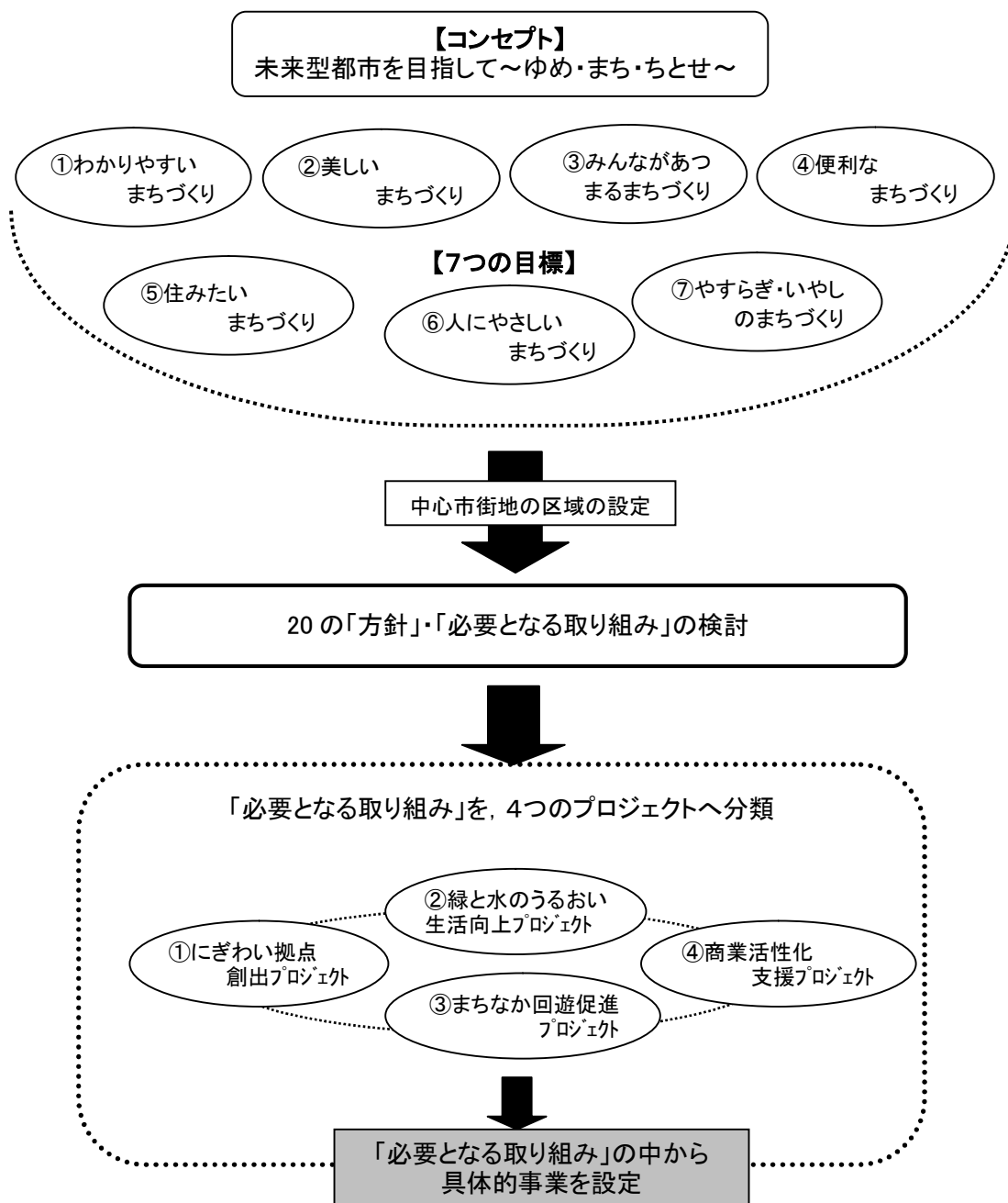
コンセプトを実現するために7つの目標を設定し、また、中心市街地活性化に必要となる取り組みを包括的、一体的に実施して事業効果を高めていくために4つのプロジェクトを掲げて、市街地の整備改善事業と商業等の活性化事業の円滑な展開を図ることとしました。



2 基本計画の推進体制

基本計画の推進体制については、ハード事業については主に行政が担うこととし、ソフト事業については、平成13年3月に市が認定構想推進事業者(TMO)として認定した千歳商工会議所が「千歳市タウンマネジメント基本計画」に位置付けて推進することとしました。

3 中心市街地活性化のコンセプトから具体的事業設定までの流れ



4 基本計画の総括

(1) 中心市街地の状況

① 人口の推移

千歳市の人口は、全国的に言われている少子化の影響などにより、伸び率は減少傾向にあります。順調に推移し、北海道内では、数少ない人口増加都市であり、一番若いまちと言われています。

このような中で、中心市街地重点地区の居住人口は、平成17年まで減少していましたが、それ以降は増加に転じ、中心部の空洞化が抑えられています。清水町の借上公営住宅建設事業や今後の緑町の市営住宅建設などにより、中心市街地やその周辺へのまちなか居住が推進され、人口回復が期待できます。

※ 千歳市の人口の推移 各年4月1日現在(住民基本台帳)

H12年	H13年	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年
88,126	88,472	88,679	89,477	89,976	90,507	91,242	91,808	92,017	92,393	92,785

※ 重点地区の人口の推移 各年4月1日現在(住民基本台帳)

(千代田町、幸町、清水町、錦町の町単位の人口。重点地区の範囲とは一致していない。)

H12年	H13年	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年
2,301	2,258	2,255	2,190	2,142	2,090	2,126	2,142	2,157	2,165	2,241

② 通行量の推移

通行量調査は、数年に一度実施しており、平成13年と平成20年を比較してみると、千歳駅前が大きく増加しており、またタウンプラザ前も増加しています。一方、ニューサンロード内は平日に減少しているものの、日曜日は増加傾向にあり、中心市街地全体の通行量は、平成13年から平成16年にかけて増加していますが、平成16年から平成20年にかけては、ほぼ同数となっています。

平日

9時～21時までの1時間当たりの平均通行量

	H13年9月	H16年10月	H20年10月	H13とH20の増減率
千歳駅前	95人	214人	222人	133.7%
タウンプラザ前	83人	105人	127人	53.0%
ニューサンロード内	97人	50人	51人	△47.4%
23地点 合計	1,735人	2,077人	2,080人	19.9%

日曜日

	H13年9月	H16年10月	H20年10月	H13とH20の増減率
千歳駅前	79人	190人	226人	186.1%
タウンプラザ前	50人	63人	81人	62.0%
ニューサンロード内	24人	49人	34人	41.7%
23地点 合計	1,473人	1,757人	1,711人	16.2%

(千歳商工会議所調べ)

③ 店舗数及び年間商品販売額の推移

商業統計調査による店舗数は、北海道全体では減少している中で、千歳市全体では僅かながら増加しており、重点地区においては平成9年から平成14年にかけては大きく減少しているものの、平成14年から平成19年にかけては、ほぼ同数となっています。

年間商品販売額は、千歳市全体では、平成9年から平成14年にかけて減少していますが、平成14年から平成19年にかけては、減少幅は改善されています。重点地区においては、車社会の進展や大型店の立地など厳しい環境下で減少傾向にあります。北海道全体と比べると減少幅は抑えられています。

※商業統計調査（重点地区の事業所数等は、千代田町、幸町、清水町、錦町の町単位による。）

[]内は対前回増減率

年	事業所(店舗)数			年間商品販売額(億円)		
	H9	H14	H19	H9	H14	H19
千歳市全体	752	726 [△ 3.5%]	769 [5.9%]	1,971	1,723 [△ 12.6%]	1,675 [△ 2.8%]
重点地区	185	134 [△ 27.6%]	135 [0.7%]	222	199 [△ 10.4%]	181 [△ 9.0%]
北海道	71,872	66,506 [△ 7.5%]	58,236 [△ 12.4%]	239,439	202,478 [△ 15.4%]	178,194 [△ 12.0%]

(2) 中心市街地活性化に係る取り組み

① 市街地の整備改善事業

平成17年3月に開設した千歳タウンプラザの利用客数は堅調に推移し中心市街地への集客に貢献していましたが、平成22年3月にキーテナントが撤退し、次期テナントの早期開業が求められています。このほかは、市街地の整備改善事業として、バスターミナルの整備、グリーベルトの再生、公営住宅の整備など、数多くの事業を実施してきており、行政が担うハード事業は概ね完了しています。

② 商業等の活性化事業

TMOの商業等の活性化事業は、26事業中、事業の実施に至ったものが約6割であり、今後についても必要と判断される事業については、担うべき実行主体に委ねながら遂行していく必要があります。なお、商店街には、平成21年8月に施行された地域商店街活性化法に基づき、子育てや高齢者の生活を支え、地域コミュニティを維持・発展させる施策などに取り組むことが期待されています。

5 各事業の実施状況

基本計画に基づく4つのプロジェクトに掲げた「市街地の整備改善事業(24事業)」、「商業等の活性化事業(26事業)」について、実施状況を取りまとめました。

	事業数	実施	未実施
市街地の整備改善事業	24	17	7
商業等の活性化事業	26	16	10

※各事業の詳細については、次頁のとおり

① にぎわい拠点創出プロジェクト	② 緑と水のうるおい生活向上プロジェクト	③ まちなか回遊促進プロジェクト	④ 商業活性化支援プロジェクト
中心市街地の要となる拠点において、にぎわいを生み出すための「器」としての施設整備を促進する。と同時に、にぎわいを生み出すための「仕掛け」としてのソフト施策を展開し、市民や観光客・来訪者を中心市街地に誘引していく。	緑(グリーンベルト)と水(千歳川)を活用した、他都市にはない、うるおいのある豊かな生活空間の創出を目指すとともに、生活利便性を向上させるためのソフト施策を展開することによって、中心市街地への居住を促進させていく。	高齢者や障がい者を含め中心市街地の来街者みんなにやさしく、誰もが安心して活動できる中心市街地の整備を進めるとともに、楽しみながら散歩できるようなソフト施策の展開を図ることによって、来街者の回遊性の向上を図っていく。	買物利便性の向上、積極的な情報発信、商業者意識の改革等を進めるために必要なソフト施策を、一体的かつ総合的に図ることによって、商店街の活性化を支援していく。

『市街地の整備改善事業』

プロジェクト名	項目	番号	整備内容等		実施状況	概要
にぎわい拠点創出	エスプラザの活用	1	エスプラザの活用	・千歳市中心市街地の核となる施設で、消費者意識調査においても広くその活用・再整備が強く望まれている施設である。 ・市街地活性化の要となる施設であることから、店舗・集会場・福祉施設等を備えた機能の導入とともに、居住機能の導入を検討する。	実施	・平成11年2月に閉鎖された旧エスプラザビルは、平成14年に民間事業者が取得し、平成17年3月に「千歳タウンプラザ」として開業した。 ・地階のキーテナントが平成22年3月に撤退し、次期テナントの早期開業が求められている。
	アーケードの再生	2	アーケードの再生	・中心市街地のシンボルの1つとなっているが、近年老朽化が進行しており、消費者・経営者意識調査において、アーケードの再生に関する意見が寄せられている。 ・アーケード再生の方向性については、歩行者空間に配慮した、明るい通りづくりを検討する。	実施	・ニューサンロード商店街振興組合は、アーケード老朽化に伴い再生を前提に検討していたが、資金や維持管理コスト等の問題から自己資金に市からの補助金を加え、平成18年11月に撤去した。
	公共施設跡地の活用 (重点地区外)	3	公共ゾーンの整備	・市役所・福祉センター等が立地している公共ゾーンは、既存施設を活かした市民サービスの向上を図り、高次な行政・公共ゾーンとしての活用を検討する。	実施	・平成3年度に策定した「千歳市本庁舎周辺再整備基本計画」に基づき、旧第一病院跡地の駐車場化、旧市立総合病院跡地における看護婦宿舎への社会福祉協議会の入居、周辺の千歳川河川敷の緑地整備等を実施した。
	娯楽機能の導入	4	娯楽施設の導入	・消費者・経営者意識調査において、導入が特に望まれている機能である。近隣市町村における娯楽施設の立地動向を踏まえながら、具体的な導入について検討する。	未実施	・民間が主体となり検討する分野であり、事業主体や財源などの課題により実施に至らなかった。
緑と水上のプロジェクト おい生活	グリーンベルトの再生	5	グリーンベルトの整備改善	・グリーンベルトは、中心市街地における貴重な自然空間であることから、グリーンベルトの多目的な活用を目指す。 ・連続性の確保のため、千歳川渡り南北を繋ぐ歩行者を重視したシンボル橋の整備を目指す。 ・軽スポーツ・フリーマーケット及び花いっぱい運動など、活用が促進されるようなイベントの発掘を図る。 ・グリーンベルトに向けたまちづくりを目的として、都市景観ガイドプランなどを作成する。	実施	・グリーンベルトは緑のシンボルとして中心街を縦断するアメニティ軸に位置づけられていることや、市民や来訪者にとって「憩いの場」としての機能が求められていることから、平成21年6月にグリーンベルト活性化計画を策定し、平成21～27年度を目処にグリーンベルトの改修を行っている。 ・千歳川との交差点については、検討の結果、橋の整備は行わず、親水広場として整備することとした。
	千歳川の再生	6	親水空間の整備	・千歳川は、中心市街地における重要な自然空間であることから、千歳川の多目的な活用を目指す。 ・沿道建物の更新、公園の整備など、他事業との連携のもと、河畔の散策路や川にふれあえる場など、親水空間の整備を目指す。 ・千歳川に向けたまちづくりを目的として、都市景観ガイドプランなどを作成する。	実施	・グリーンベルトの改修にあわせて千歳川に親水護岸を計画するとともに、河川管理者において継続的な河畔の散策路を整備しており、一体的な活用方法を図る。
	都心居住の推進	公営住宅の整備	7	公営住宅の整備	・中心市街地に存在している、老朽化した市営住宅を、「千歳市公共賃貸住宅再生マスタープラン」に基づき建て替えを図る。	実施
特定優良賃貸住宅の導入		8	特定優良賃貸住宅の導入	・中堅所得者等の居住のため、民間主導の特定優良賃貸住宅の立地促進を目指す。	未実施	・中堅所得者層向けの住宅については、居住者ニーズに合わせた一般の賃貸物件が豊富に整備されている状況から、民間による特定優良賃貸住宅の整備は進まなかった。
高齢者向き住宅の導入		9	高齢者向き住宅の導入	・高齢者の都心居住を促進するために、高齢者向き住宅の整備を目指す。	実施	・民間による「高齢者向け優良賃貸住宅」制度の導入を図るとともに、北海道と連携のもと「シルバーハウジング世帯向住宅」を建設した。 ・中高層の市営住宅を整備する際に、特定目的住宅として「老人世帯向住宅」を一定戸数確保している。

プロジェクト名	項目	番号	整備内容等	実施状況	概要
まちなか回遊促進プロジェクト	安全快適なみちづくり	10	歩行者空間の整備 ・重点地区を中心に、バリアフリーにも配慮した歩行者が楽しく安全に回遊できるための歩道空間の整備や、コミュニティ道路の整備を図る。	実施	・「千歳駅周辺交通バリアフリー基本構想」に基づき、JR千歳駅を中心とした交通結節点改善事業やその周辺の歩道バリアフリー化など順次整備を進めている。
		11	電線類の無電柱化 ・重点地区を中心に、主要道路における電線類の無電柱化を検討する。	実施	・駅大通と道道早来千歳線(中央大通)の電線地中化を実施し、現在は国道36号で実施している。
		12	冬季対策 ・重点地区を中心に、冬季間の安全な歩道確保のため、ロードヒーティング等の融雪施設の整備を目指す。	実施	・中心市街地内における急勾配歩道部でのロードヒーティングを一部実施しており、平面部の歩道については除雪や滑り止め剤散布などにより対応している。
	休息のための施設整備	13	休憩機能の導入 ・重点地区を中心に、空き地等を活用した休憩機能の導入を図る。	未実施	・各商店街等の自主事業となるが、商店街等の空き店舗等を利用した休憩スペースの導入については実施に至らなかった。
		14	公園・緑地の整備(待ち合わせスポットとしても利用) ・重点地区を中心に、既存空き地の活用や建物の更新時の用地供出等による公園・緑地整備を目指す。	未実施	・既存空き地の活用や建物の更新時の用地供出等の取組は実施に至らなかった。
	きれいな道路景観づくり	15	植樹・植栽の整備 ・重点地区の道路を中心に、植樹・植栽等による緑化を図る。	実施	・幹線道路については景観に配慮した街路樹の整備を実施しており、また、水と緑の景観づくりとしてグリーンベルト活性化計画に取り組んでいる。その他の路線においても公園緑化協会のフラワーロードなどの緑化振興事業に取り組んでいる。
		16	ストリートファニチャーの整備 ・重点地区を中心に、街路灯やモニュメントなどのストリートファニチャーの整備を図る。	実施	・平成14～15年度に、市の「中心商店街活性化モデル事業」の一環として、丸太ベンチの作成や街路灯に下げるタペストリー製作等を行った。 ・チャタリングロード整備事業において、デザイン照明を設置し、ニューサンロード商店街においてモニュメント(時計)1基を整備した。
		17	案内板の設置 ・重点地区の主要道路を中心に、来街者誘導のための分かりやすいサインの設置を図る。	未実施	・店舗の入替が激しく、また、店舗が点在していることや案内板の更新費用などが課題となっており、実施に至らなかった。
	駅前の利便性向上	18	バスターミナルの整備 ・交通結節機能の強化のため、駅前におけるバスターミナル整備を図る。	実施	・「千歳市公共交通システム整備事業」として平成16年度に整備した。
		19	情報センター等の整備 ・公共交通利用の来街者等を対象にした、観光情報等を提供する場の整備を検討する。	実施	・駅前ビルの「ペウレ千歳」内に観光案内所を平成16年度に設置した。
		20	飛行機搭乗手続き機能の導入 ・駅における交通結節機能の整備や、中心市街地の都市機能向上にあわせ、長期的視点に立ったうえで飛行機搭乗手続き機能の導入を目指す。	未実施	・PCや携帯電話の普及によって、すでに個人の端末からチェックインができるようになっており、空港以外の施設に自動チェックイン機能等を設置する必要性がなくなった。
	使いやすい駐車場の実現	21	空き地等を活用した駐車場整備 ・重点地区内における主要道路の沿道等のわかりやすい位置に、既存空き地の活用や建物更新時の用地供出等による大規模な共同駐車場整備を検討する。	未実施	・既存空き地の活用や建物更新時の用地供出等による共同駐車場の整備は、民間による事業となるが実施に至らなかった。
		22	グリーンベルト駐車場の活用 ・駐車場出入り方法の改良等により、グリーンベルト地下駐車場の利用向上を目指す。	実施	・利用者の要望等により施設の改修や利用方法の改善等、使用し易い環境整備を図ったことから、年々利用者も増加傾向にあり、現状においては必要駐車台数は充足している。
	交通利便性の強化	23	交通利便施設の整備 ・ドライバーサービスの提供と、国道からの千歳市中心市街地への玄関口として役割を果たす、交通利便施設の整備を目指す。	実施	・平成16年に「サーモンパーク千歳」が道の駅に指定された。
		24	バス路線網の充実 ・中心市街地と各地区を連絡するバス路線網の充実を図る。	実施	・平成14年度にピーバス(循環型コミュニティバス)を本格運行し、平成16年度には「千歳市公共交通システム整備事業」の中で、主に千歳駅を基点とするバス路線網の見直しを行った。

『商業等の活性化事業』

プロジェクト名	番号	事業の内容	実施状況	概要
にぎわい拠点創出プロジェクト	a	チャレンジショップ制度の導入(中小小売商業高度化事業) ・当該商店街に不足している業種あるいは若年層の来街を誘引できるような業種(例えば雑貨、リサイクルショップ等)、導入する業種を検討し決定する。あわせて、空き店舗を安く借上げて1~2坪程度に仕切る等の改装を行う。 ・導入業種の開業希望者を公募し、審査の上入居者を決定する。そして、安価な家賃設定により賃貸し開業してもらう。また、空き店舗情報についてもチャレンジショップにおいて公開する。 ・将来的には本格的な独立開業を支援するシステムの導入を検討する。	実施	・平成16~17年度に実施、当初飲食店1店舗、物販6店舗の開業があったが、独立開業に至ったのは物販1店舗のみに留まり、店舗の維持コスト(特に暖房費)が高く、平成18年度以降の事業継続が困難となった。
	b	イベントスペースの開設(中小小売商業高度化事業) ・空き店舗や空き地を活用し各種イベントに貸し出すイベントスペースを開設する。 ・考えられるイベントとしては、フリーマーケット、ライブコンサート、野菜の販売、紙芝居、カラオケ勝抜き歌合戦、子供の絵の展示、子供の工作教室、各種サークル・個人の発表の場、漬物講習会、ハスカップ等を使ったお菓子づくり講習・販売、大正琴の発表会、小・中・高校の部活の発表・展示の場、書道展等の選外作品の展示等がある。 ・一部のイベント(販売等)からは利用料を徴収する。 ・また、イベントが実施されない場合には休憩スペースとして利用する。	実施	・平成16~17年度のチャレンジショップ事業実施時に、にぎわいを創出するためフリーマーケットや即売会等のイベントを実施した。
	c	中心市街地における案内板の設置(中小小売商業高度化事業) ・チャレンジショップやイベントスペースへの来訪者を誘導するための案内板を設置する。 ・また、イベントスペースで実施される予定のイベントを告知する掲示板を設置する。 ・将来的には、商店街・公共施設等を網羅した案内板の設置を検討する。	未実施	・店舗の入替が激しく、また、店舗が点在していることや案内板の更新費用などが課題となっており、実施に至らなかった。
	d	休憩スペースの設置(中小小売商業高度化事業) ・ベンチ等の小休憩ができる場を商店街内に設置する。 ・また、イベントスペースの転用だけでなく、空き店舗や空き地を活用した休憩所の設置も図る。例えば、休憩所内に伝言板を設置し、サークルやバンドのメンバー募集等自由に利用できるようにする等市民が気軽に集える場として位置付けていく。	未実施	・平成16~17年度のチャレンジショップ事業実施時に休憩スペースを併設したが、チャレンジショップの終了と同時に閉鎖し、商店街等の空き店舗等を利用した休憩スペースの導入については、実施に至らなかった。
	e	フリーペーパーの発行(中小小売商業高度化事業) ・一店逸品の紹介、チャレンジショップの紹介、イベントスペースでのイベント告知を内容とするフリーペーパー(A31枚程度)を試験的に発行する。配布にあたっては、各商店街をはじめホテル、コンビニエンスストア等できるだけ多くの配布場所を設定する。 ・知名度の向上に伴って個店や商品の紹介、商店主等の人物紹介、まちづくり情報、市民伝言板等を加え内容の拡充を図り、来訪者も対象にした有料の情報誌として発行(年3~4回程度)を図る。 ・将来的には、近隣市町への配布も検討する。	実施	・平成13年度に北新商店街がフリーペーパー「いろはのは」をテストケースとして発行し、PR効果はあったものの他の商店街に波及しなかったが、現在は民間のフリーペーパーによる個店紹介など情報発信は進んでいる。
	f	一店逸品運動の展開(中小小売商業高度化事業) ・各商店の目玉・一押し・売れ筋商品等をリストアップする。そして、「他店にはないもの」等一定の基準を設け、それに基づき「逸品」として認定する。 ・この「逸品」は、ホームページ、フリーペーパー、ポスター、ステッカー等によりPRを図る。チャレンジショップ内において「逸品」の展示・即売も行う。 ・また、認定された「逸品」についてはアンケート調査等によりモニタリングを行う。場合によっては、認定の取り消しも行う。 ・将来的には千歳ブランドの商品開発についても検討する。	実施	・平成13年度に「新川通逸品カレンダー」を作成し、平成15年度に北新商店街を紹介する小冊子を作成した。 ・また、青年会議所による千歳らしさを表現した鍋料理の考案、TMOによる「一店逸品マップ」を作成し情報発信を行った。
	g	イベントの実施 ・既存のイベントの他に、冬期のイベント(例えば、市民参加型による雪像・氷像づくりコンテスト等)を中心にイベントを新たに発掘し立ち上げることにより、1年通じて様々なイベントが実施されるような仕組みの構築を検討する。	実施	・平成13年に「新川通ホワイトイルミネーション」を実施し、平成14年~16年には駅前とグリーンベルトにおいて「ホワイトドリームフェスタ」を実施した。 ・また、平成15年からは「光と氷のオブジェ」を実施しており、平成22年には「千歳ちびっ子雪ランドinサケふる」を実施した。
	h	マスコミの活用 ・新聞やTV等とタイアップした商店街のPRを検討する。	実施	・各種イベントの開催やクリスマスセールなどの情報提供を行い、商店街をPRするためのマスコミの活用を図った。
	i	大型店の誘致(中小小売商業高度化事業) ・核店舗となりうる大型店の誘致を検討する。 ・また、商業者主導で大型商業集積(小型ショッピングセンターや共同店舗等)の整備も検討する。	実施	・商業者主導での大型商業集積(小型ショッピングセンターや共同店舗等)の整備は実施に至らなかったが、各店舗となる大型店については、平成17年にタウンプラザが再開された。
	j	駐車場の整備(中小小売商業高度化事業) ・中心市街地の空き地を借上げ、駐車場としての転用を検討する。 ・また、中心市街地に点在する駐車場を共通利用できるようなシステム(共通駐車券等)の構築を検討する。	未実施	・空き地の賃借・整地や共通駐車券システムなどは、財源に課題があり検討には至らなかった。

プロジェクト名	番号	事業の内容		実施状況	概要
にぎわい拠点創出プロジェクト	k	託児所の開設(中小小売商業高度化事業)	・買物する間有料で子供(例えば0歳児～就学前)を預かる(例えば午前8時～午後6時)託児所の開設を検討する。 ・また、買物客だけではなく、需要があると考えられる夜間保育等についても実施を検討する。	未実施	・商店街の空き店舗を活用し開業した託児所が2例あるが、需要が低く両社とも1年余りで撤退した。
	l	娯楽機能の導入(再掲)	・近隣市町村における娯楽施設の立地動向を踏まえながら具体的な導入について検討する。	未実施	・民間が主体となり検討する分野であり、事業主体や財源などの課題により実施に至らなかった。
	m	アーケードの再生(再掲, 中小小売商業高度化事業)	・アーケード再生の方向性については、歩行者空間に配慮した明るい通りづくりを検討する。	実施	・ニューサンロード商店街振興組合は、アーケード老朽化に伴い再生を前提に検討していたが、資金や維持管理コスト等の問題から自己資金に市からの補助金を加え、平成18年11月に撤去した。
	n	エスプラザの活用(再掲)	・店舗・集会場・福祉施設等を備えた機能の導入とともに居住機能の導入を検討する。	実施	・平成11年2月に閉鎖された旧エスプラザビルは、平成14年に民間事業者が取得し、平成17年3月に「千歳タウンプラザ」として開業した。 ・地階のキーテナントが平成22年3月に撤退し、次期テナントの早期開業が求められている。
	o	循環バスの運行	・中心市街地と周辺主要施設(空港、JR駅、観光施設、福祉施設等)を結ぶ循環バスの運行を検討する。	実施	・平成14年度に千歳駅を起点として市内の公共施設や病院、商業施設などを循環運行する、ピーバス(循環型コミュニティバス)が本格運行している。
	p	商店街の核づくり(中小小売商業高度化事業)	・横丁、市場、飲食街等、商店街の核となりうる商業集積の整備を目指す。	未実施	・民間が主体となって検討する分野であり、商店街の核となりうる商業集積の実施には至らなかった。
緑生くと活ト水向のうプロジェクト	q	千歳川を活用した取り組み	・千歳川に向けたまちづくりの形成のため、PRや提言を行うことを目指す。 ・また、将来的には千歳川のイメージを用いたストリートファニチャー等の整備や千歳川のイメージを活かした商品開発を目指す。	実施	・「噴水フェスティバル」、「あんどんまつり」、「光と氷のオブジェ」などの千歳川を活用した取り組みが行われている。
ま促進なプロジェクト	r	商店街の美化・清掃の推進	・フラワーポットの設置等によるきれいな商店街景観づくりを図る。 ・中心市街地において、街路樹の剪定、冬期の除・排雪、散水等の定期的実施を検討する。	実施	・商店街振興組合連合会の環境整備事業の一環としてフラワーポットの設置などを行っている。また、中心商店街美化清掃事業として「まちなかクリーン大作戦」を実施している。
	s	商店街のまちなみ整備(中小小売商業高度化事業)	・シンボルカラーやキャラクター等の設定を目指す。 ・また、将来的にはシンボルカラーやキャラクター等を活かしたファサードの統一等を目指す。	未実施	・商店街振興組合に加入していない店舗及び夜間営業の飲食店の増加等により、商店街全体でのコンセプトを取ることが難しく、シンボルカラーやキャラクター等の設定には至らなかった。
商業活性化支援プロジェクト	t	共通商品券の発行	・各商店街単位で、期間を限定(例えば3～5月、11～1月)した商品券の発行を検討する。 ・将来的には大型店・飲食サービス店等でも使える市内共通商品券の発行を目指す。	未実施	・実施主体が判断すべき事業となるが、他都市での実績を調査検討した結果、財源や管理、継続性が見込めないなどの課題があり実施には至らなかった。
	u	バーチャルモールの開設	・ホームページ上で地域内・外から商品や特産品の注文が受けられるような店舗の開設を検討する。	実施	・決済システムなど運用上の課題があり本格実施に至っていないが、商店街ホームページ作成事業と連携して平成16年6月に一部開設した。 ・現在は、インターネットを利用した商業サービスがすでに展開されている。
	v	商店街ホームページの作成	・各商店街ごとに、商店街のマップや個店の紹介等を行うホームページの作成を検討する。	実施	・市や科学技術大学との連携してバーチャルモール開設事業と一体的に取り組み、オリジナルホームページは20店舗を掲載している。
	w	宅配・買物代行サービスの実施	・高齢者・障害者等を主たる対象として、電話・FAXによる宅配・買物代行サービスの導入を検討する。	実施	・平成13年度から商店街の実施店舗が「宅配サービス店」のステッカーを貼り実施している。
	x	人材育成・研修の推進	・現在行われている商工会議所等による講習会等の見直しを図りつつ、店主・従業員向けの研修の実施を検討する。 ・また、将来的には有料のセミナー・講演会等の実施を目指す。	実施	・商工会議所等が実施している研修や講習会等は、内容を見直しながら継続して実施している。

プロジェクト名	番号	事業の内容		実施状況	概要
	y	カード事業の導入	・現在実施されているサーモスタンプからポイントカードやICカード等への切り替えを目指す。具体的には買物金額に応じてポイントを付与し、駐車場や公共施設等と連携しながら各種の還元を行うカードシステムの構築を目指す。	未実施	・カードシステムの構築に係る端末機の設置に多額の導入費用負担があり、事業化には至らなかった。
	z	商店街マップの作成	・各商店街毎の案内マップの作成を図る。	未実施	・千歳市商店街振興組合連合会が平成12年3月に「ちとせ商店街案内マップ」を作成し、更新に向けた検討をしたが、作成費用などの課題により実施に至らなかった。

なお、空き店舗対策事業の「空き店舗利用促進・にぎわい再生事業」及び「テナントミックスの形成」については、当初基本計画に無く、TMOが追加した事業であり、同事業のTMOの評価は次のとおり。

プロジェクト名	事業の内容		実施状況	概要
創 に出 ぎ プ ロ ジ ェ ク ト	空き店舗利用促進・にぎわい再生事業	・中心商店街の空き店舗にて開業する場合の他、魅力的な商店街づくりを推進するにぎわいを再生する事業を実施する際に、事業費の1/2を補助する。	実施	・空き店舗利用促進事業・にぎわい再生支援事業は、来街者の増加や魅力ある商店街づくりの推進など一定の効果は上がっていることから、継続的に取り組む必要がある。
	テナントミックスの形成	・各商店街ごとに自らの目指すべき将来像を設定し、現状不足している業種・業態の検討を行い、その導入を図る。	未実施	商店街に必要な業種を誘引するためには、既存の店舗の移転など、財源の確保が必要不可欠であったことから、優先順位が低く実施に至っていない。 千歳市全体のまちづくりの方向性を再度明確にし、商業者による商店街のコンセプトづくりなど、市・商工会議所・商店街・市民団体一体で検討が必要である。